



巻 頭 言

発 想 の 転 換

(財)日本植物調節剤研究協会 理事 九州支部長 石田 良晴

福岡市近郊にあるゴルフ倶楽部の調整池では、水上栽培の実用化にむけた実験がすすめられています。水面上にカンナの花が色鮮やかに咲き乱れ、観葉植物の水竹（日本名 ヤブレガサ）が青々と生長を続け、注目されています。

この実験事業は九州大学農学部を中核に、国立中国水稻研究所、そして(財)西日本グリーン研究所も参画して取り組みをはじめたものであり、財団法人河川環境管理財団からの助成によるものです。

実は昨年秋、中国からの招きでインビテーションが届き、急拠10日間の日程で悠久の大地・中国へ視察の旅に出かける機会をいただいた。板付から上海空港へ直行、さらに国内線乗り継いで、重慶の西南農業大学、武漢の華中農業大学、浙江省の農業科学院、さらには杭州市の国立中国水稻研究所等々、その見聞を広めることが出来ました。大都市のいずれもが人、人、人、そして自転車の洪水でまさしく過密そのもの、とうとうと流れる揚子江、緑と水に囲まれた西湖の美観など、今なお記憶に新しい。

ところで、先述の中国水稻研究所では、湖沼の水面上に発泡スチロール製の筏を浮かべて水稻を栽培するという、いわゆる「水上栽培法」について、画期的でしかも大規模な研究がすすめられています。しかも予期した以上に見事な出来ばえであり、その生育は目を見張るばかりです。すでにイネは出穂を終り、成熟期が近くなっていました。池・沼の栄養塩類を利用することによって、水田と同等またはそれ以上の

収量を期待出来ることがまさしく立証されています。しかも、水上に浮遊させて栽培するため、浸水害や早ばつ、さらには強風による倒伏の心配もなく、熟れ色も秋の日に映えて実に素晴らしいものです。

中国では、もともと食糧増産のために、水田以外からも米の生産を伸ばすことを目的として開発中の新技術です。しかし、水上栽培は富栄養化が進行している河川・湖沼の栄養分を除去し、水質の改善に寄与する点でも大いに期待されるものがあります。

現在、池の水を浄化する手段として、①濾過による、②微生物による、③オゾンを使う、④爆気法による、⑤凝集剤を使う等の方法があって、それぞれ利活用されていますが、必ずしも万全とは云いがたいところです。今後花卉類を水上栽培することによって、水質浄化はもちろんのこと、水面の緑化そして環境の美化にも大いに貢献するものと考えられます。

なお、来年からはいよいよコメの部分解放が始まろうとしています。今後の稲作農業の改革について、内外価格差のうえからも大きな関心が持たれています。農水省の新農改プランによれば、稲作農家の大規模化をすすめ、10年後には生産コストを40～50%引き下げることが打ち出されています。一方、省力・低コスト化を目指して、フロアブル剤やジャンボ剤の開発研究もはじめられています。

新しい方向を拓くに当り“発想の転換”がいま求められる時ではないでしょうか。